



中国古箏、ポルトガルギターの音色とマカオの町並みの映像を融合し観客を楽しませたコンサート10日夜、那覇市のパレット市民劇場

「マカオのタベ」コンサート

東西文化が融合

東洋と西洋の文化が交差するマカオの魅力音を映像で伝えるコンサート「マカオのタベ」(マカオ観光局主催、琉球新報社共催)が10日夜、那覇市のパレット市民劇場で開かれた。

ポルトガルと中国の文化を融合して発展したマカオの歴史を映像で流すとともに、ポルトガルギターと中国の民族楽器古箏の音色で、満場の観客を楽しませた。

演奏したのは日本のポルトガルギターのパイオニア湯浅隆とマンドリン奏者吉田剛士のデュオ「マリオネット」と、中国出身の双子

の驚と燕。雄大な古箏の音色と、12

本の弦で奏でるポルトガルギターのノスタルジックな調べに観客が聞き入った。オリジナル曲や4人による「蘇州夜曲」、アジアの名曲と紹介された喜納昌吉の「花」を演奏した。

海外誘客の戦略と課題

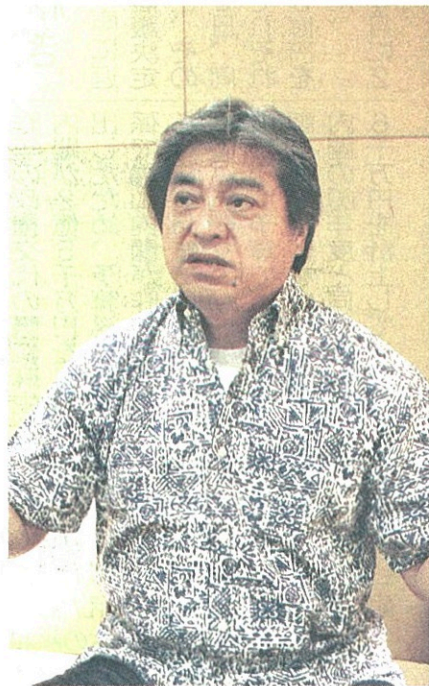


日本旅行業協会（JATA）の国際観光会議・世界旅行博などの統括プロデューサーやマカオ観光局の日本代表を務める榎原史博氏が9日、来県した。マレーシアなど観光受け入れ地のマーケティング戦略なども担当する榎原氏に、海外誘客に必要な戦略や沖縄の魅力、沖縄観光の課題などを聞いた。

―外国人観光客誘客に向け沖縄に求められることは。

「ツーリズム（旅行）で一番重要なことは、その国や地域らしさ。他国と比較して、

日本旅行業協会 統括プロデューサー 榎原 史博氏



「王国」表現する商品を

これこそ沖縄と言えもの、つまりアイデンティティーが求められる。日本国内からの観光客、中国、韓国、欧州など、各市場が求めるものを確実にとらえ、具体的に商品として表現する必要がある」

―県は外国人誘客強化に取り組んでいるが、道路標識などの多言語表示などの課題も挙げられている。

「多言語表示などは大きな問題ではない。沖縄はどのような目的を持った観光客を誘

客できるかを、明確にとらえることが重要だ。これからは各方面からの誘客が必要。従来の中国人観光客や韓国人観光客がリピーターになるような旅行商品も求められている」

―方、優しきがある」

「リゾート地では旅行者のプライバシーが守られることが重要だ。沖縄（日本）にはその概念があるので、欧州人観光客が離島を中心に増えてきた。欧州からの旅費は高いが、これらのソフト面が欧州人を引き付ける要素になっている」

―海外観光客の開拓ではタイなど世界各地に競合地がある。これらに優位性を持つ沖縄の魅力は何か。

「沖縄は琉球王国という独自の歴史・文化を築いてきた。これらをいかに商品で表現できるかが差をつけるのではないか。琉球王国時代から人の行き来を見てきた沖縄は、他国にはない人への接し

―今後の海外誘客での課題は何か。

「例えば中国人観光客を迎えるにしても、店舗間でも中国人がどの商品を求めているのかを学ぶ勉強会も必要だろう。今は大旅行時代で、この時代の波に乗り、行き先に沖縄を選択してもらう方法や経済効果のある滞在にする方法などが求められている」

（聞き手・大城麻衣子）